

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は都全体としての**警報基準**に達しました。
- ・咽頭結膜熱（プール熱）は都の定点当たり報告数が3.36と**警報レベル**が続いています。
- ・インフルエンザは都の定点当たり報告数が20.48と**注意報レベル**が続いています。
- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数が増加傾向にあり、注意が必要です。

全数報告対象疾患

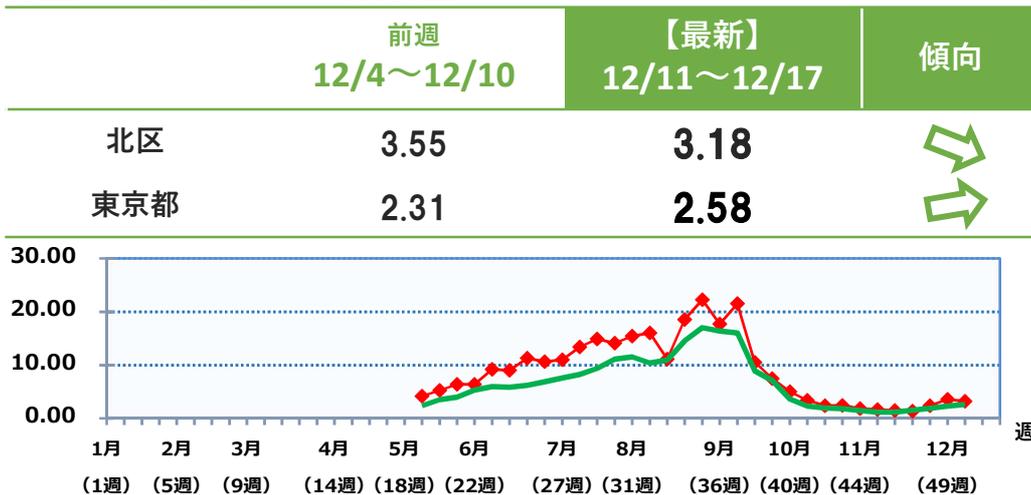
- （五類）麻しん 1件
 - ・5歳未満（男）検査診断例、推定感染地は国内、推定感染経路は接触感染、麻しん含有ワクチン接種歴は1回
- （五類）急性脳炎 1件
 - ・（70代男性）病原体はヘルペスウイルス、感染地は国内、推定感染経路は不明

定点把握対象疾患

定点医療機関当たり患者報告数 ◆ 2023 北区
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数) ◆ 2023 東京都

新型コロナウイルス感染症

※令和5年5月8日より定点把握対象疾患に移行しました。



Topics

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行しています

今年は咽頭結膜熱（アデノウイルス）やA群溶血性レンサ球菌による咽頭炎が増加しています。特に小児に多いですが、大人も感染します。今回はA群溶血性レンサ球菌の感染予防対策についてご紹介します。

< A群溶血性レンサ球菌の潜伏期間・症状 >

2～5日の潜伏期間の後、突然38℃以上の発熱、咽頭発赤、**莓状の舌**などの症状が現れます。嘔吐、腹痛が見られることがあります。熱は2～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善しますが、重症化すると「しょうこう熱」に移行することがあります。合併症として急性リウマチ熱や急性糸球体腎炎などがあります。

< 感染経路 >

患者さんの咳、くしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「**飛沫感染**」、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる「**接触感染**」です。

< 感染予防 >

- ・予防には、**手洗いや咳エチケット**が有効です。
- ・溶血性レンサ球菌にはアルコール消毒が効果があります。ただし、冬に流行しやすいノロウイルスやアデノウイルスに対してはアルコールは消毒効果が低いため、嘔吐や排せつ後の消毒には次亜塩素酸ナトリウムを使用しましょう。

< 治療やケアについて >

- ・早めの受診が大切です。抗菌剤による治療を行います。腎炎などの合併症を防ぐため、症状が改善しても主治医に指示された期間、薬を飲むことが大切です。
- ・喉の痛みがひどい場合は柔らかく薄味の食事を工夫し、水分補給を心がけましょう。

定点把握対象疾患

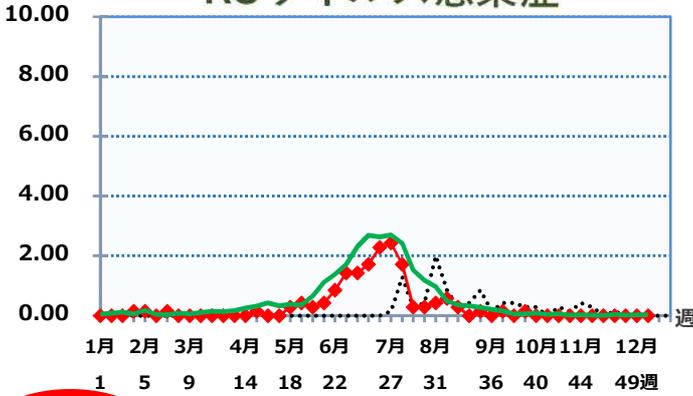
定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2022 北区
 ◆ 2023 北区
 — 2023 東京都

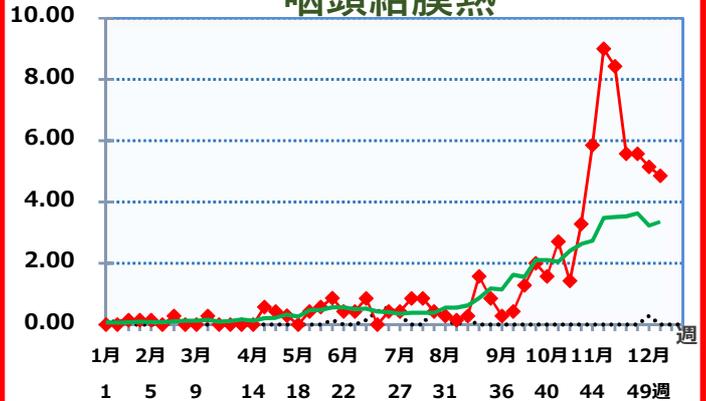
警報

警報レベルが続いており、注意が必要です。

RSウイルス感染症



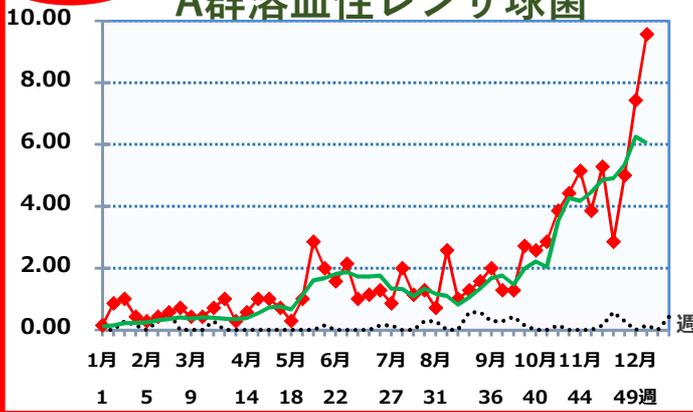
咽頭結膜熱



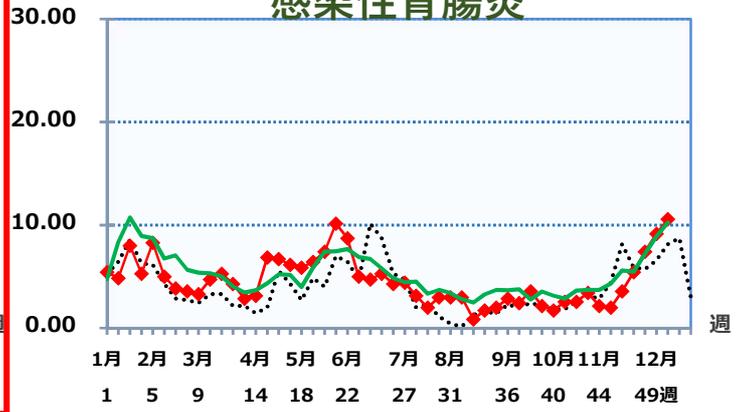
警報

都全体としての警報基準に達しました。

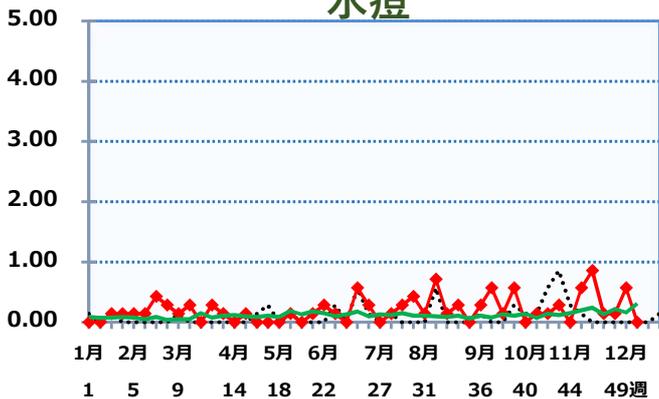
A群溶血性レンサ球菌



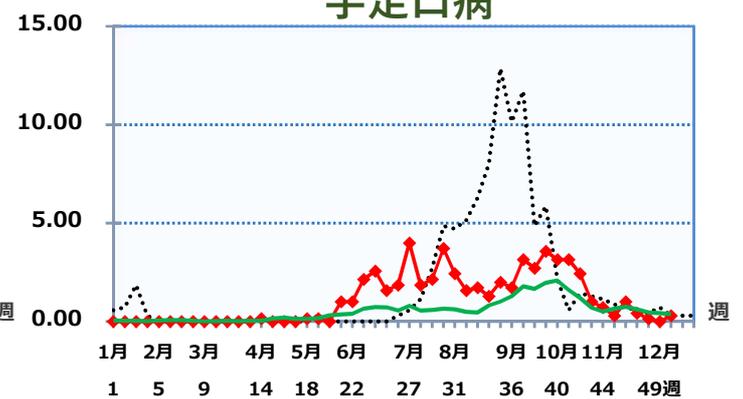
感染性胃腸炎



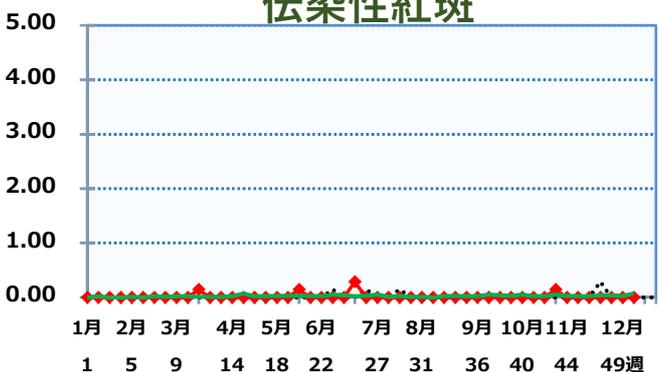
水痘



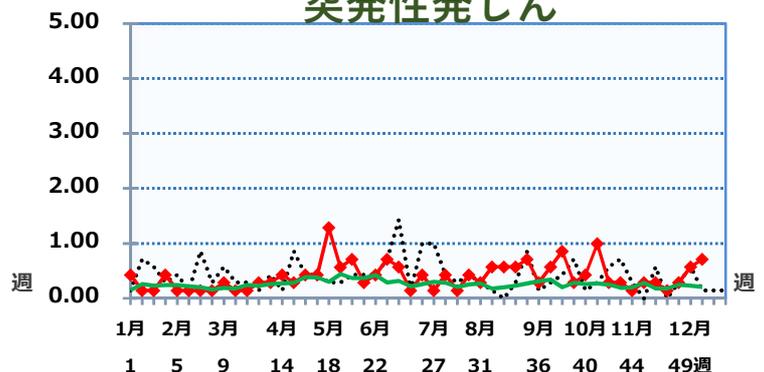
手足口病



伝染性紅斑



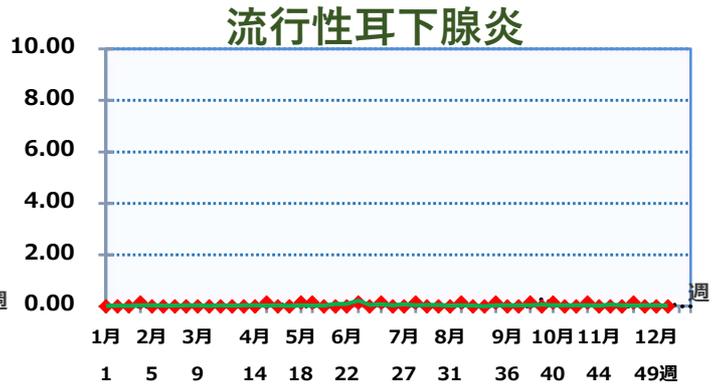
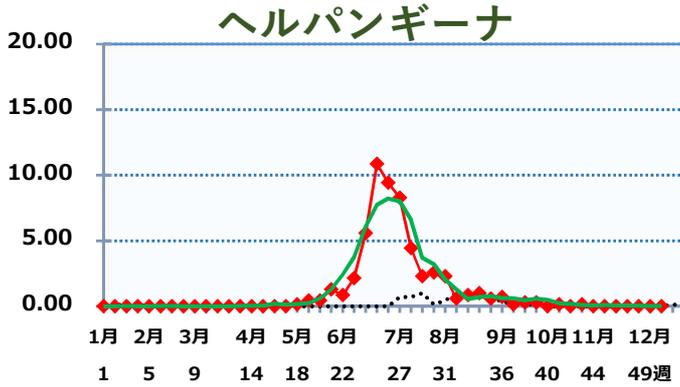
突発性発しん



定点把握対象疾患

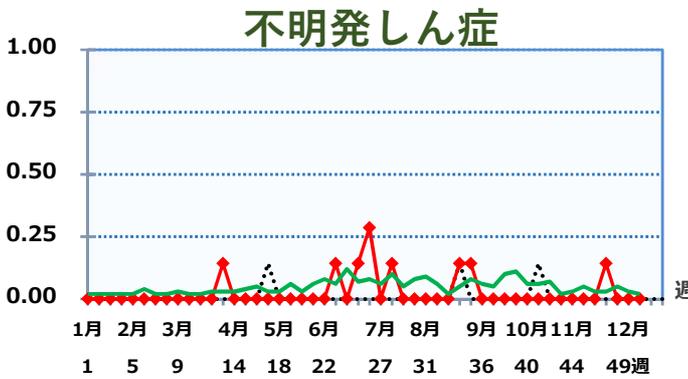
定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2022 北区
◆ 2023 北区
— 2023 東京都



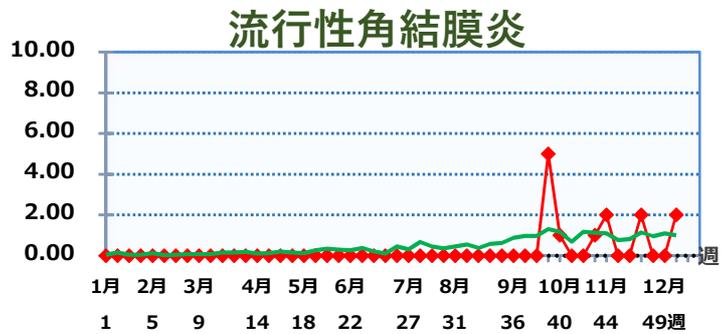
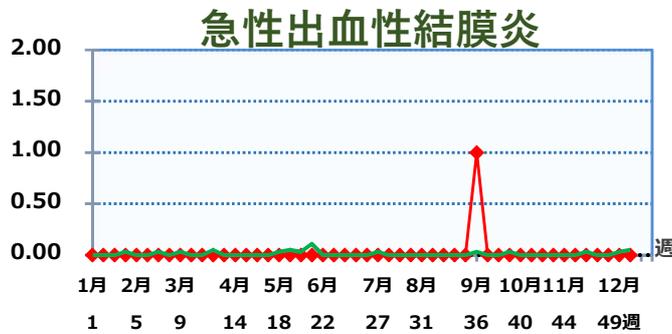
川崎病

北区 : 定点医療機関当たり患者報告数 : 0.00
 東京都 : 定点医療機関当たり患者報告数 : 0.03



注意

注意報レベルが続いており、注意が必要です。



性感染症 (2023年11月分まで) ※梅毒は「全数報告対象疾患」に掲載しています。

2023年12月分は2023年第53週号にて掲載予定です。

